

中央区内景气动向调查

平成 17 年 4 月调查结果

平成 17 年 5 月 20 日

中央区

総 括

平成 17 年 4 月の動き

中央区内における 4 月の現状判断 D I は合計で 46.4 と、前回調査から 0.5 ポイント低下し、3 か月前と比べて横ばいを示す 50.0 を引き続き下回る結果となった。景気の先行き判断 D I は 46.9 と、前回調査より 3.6 ポイント低下し、再び横ばいを示す 50.0 の水準を下回る結果となっている。

図表 景気の現状判断 D I、先行き判断 D I (合計)

(D I)	平成16年	平成17年		前回調査
合計	12月	2月	4月	からの変化
現状判断 D I	43.0	46.9	46.4	(-0.5)
先行き判断 D I	45.0	50.5	46.9	(-3.6)

目 次

調査の概要	1 頁
調査結果	
1 景気の現状に対する判断	2 頁
2 景気の先行きに対する判断	3 頁
3 現在の景気水準に対する判断（参考）	4 頁
4 判断理由	
(1) 景気の現状に対する判断理由着目点	5 頁
(2) 景気の現状に対する判断理由	6 頁
(3) 景気の先行きに対する判断理由	8 頁
（別紙）調査客体の分野・業種別人数構成	10 頁
中央区内景気動向調査 調査票	11 頁
(1) 家計動向関連	
(2) 企業動向関連	

調査の概要

1 調査の目的

中央区内において景気に関連の深い動きを観察できる立場にある人々の協力を得て、地域の景気動向を迅速かつ的確に把握し、効果的な施策を実施するための基礎資料とすることを目的とする。

2 調査の客体

中央区内の家計動向関連、企業動向関連で、代表的な経済活動の動向を敏感に反映する現象を観察できる業種において、適当な職種の中から選定した 50 人を調査客体とする。調査客体の分野・業種別人数構成については、別紙を参照のこと。

3 調査事項

- (1) 景気の現状に対する判断（方向性）
- (2) (1) の理由
- (3) (2) の追加説明及び具体的状況の説明
- (4) 景気の先行きに対する判断（方向性）
- (5) (4) の理由
- (参考) 景気の現状に対する判断（水準）

4 調査月及び調査期間等

調査月は年 6 回の隔月に当月時点で実施、調査期間は調査月の中旬約 1 週間で、平成 17 年 4 月調査の調査票発送は 4 月 8 日（金）、回答期限は 4 月 18 日（月）である。

5 調査機関

本調査は中央区が主管し、委託先である財団法人日本経済研究所を取りまとめ調査機関として実施したものである。

6 有効回答率

調査客体 50 名に対し、有効回答客体は 48 名、有効回答率は 96.0%であった。

7 D I の算出方法

景気の現状、または、景気の先行きに対する 5 段階の判断に、それぞれ以下の点数を与え、これらを各回答区分の構成比（%）に乗じて、D I を算出している。

評価	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
	良くなる	やや良くなる	変わらない	やや悪くなる	悪くなる
	(良い)	(やや良い)	(どちらともいえない)	(やや悪い)	(悪い)
点数	+ 1	+ 0 . 7 5	+ 0 . 5	+ 0 . 2 5	0

1 景気の現状に対する判断

中央区内における景気の現状判断DIは全体で46.4と、前回調査より0.5ポイント低下し、引き続き50.0を下回る結果となっている。分野別にみると、家計動向関連で横ばいを示す50.0を上回ったものの、企業動向関連は前回調査より8.4ポイント低下し、40.6となっている。3か月前と比べ「悪くなっている」と回答する人の割合は4.2ポイント増加している。

図表1-1 各分野における景気の現状判断DIの推移表

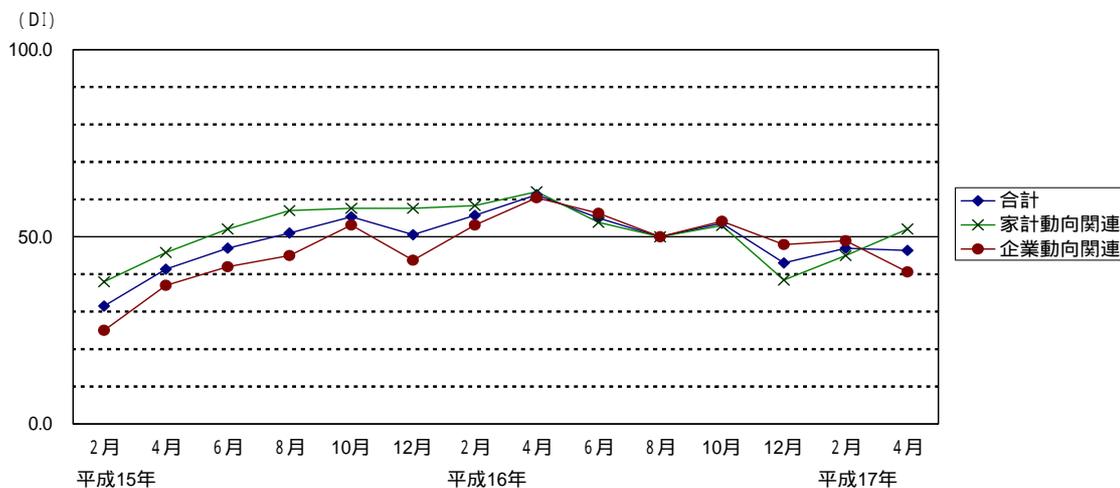
(DI)	平成16年		平成17年		(変化幅)
		12月	2月	4月	
合計		43.0	46.9	46.4	(-0.5)
家計動向関連		38.5	45.0	52.1	(7.1)
小売関連		34.6	47.9	43.8	(-4.1)
飲食関連		-	-	-	(-)
サービス関連		42.9	42.9	57.1	(14.2)
住宅関連		-	-	-	(-)
企業動向関連		47.9	49.0	40.6	(-8.4)
製造業		53.6	46.4	39.3	(-7.1)
非製造業		45.6	50.0	41.2	(-8.8)

(備考)家計動向関連のうち、飲食関連、住宅関連については、サンプル数の関係で非公表としている。

図表1-2 構成比

年	月	良く	やや良く	変わらない	やや悪く	悪く
		なっている	なっている		なっている	なっている
平成16年	12	2.0%	14.0%	50.0%	22.0%	12.0%
平成17年	2	0.0%	26.5%	38.8%	30.6%	4.1%
	4	0.0%	27.1%	39.6%	25.0%	8.3%
(変化幅)		(0.0)	(0.6)	(0.8)	(-5.6)	(4.2)

図表1-3 各分野における景気の現状判断DIの推移



2 景気の先行きに対する判断

中央区内における景気の先行き判断D Iは全体で46.9と、前回調査より3.6ポイント低下し、再び横ばいを示す50.0の水準を下回る結果となっている。分野別にみると、家計動向関連D I（54.2）は50.0を上回ったものの、企業動向関連D I（39.6）は前回調査から6.2ポイント低下し、2年ぶりに40.0を下回った。3か月後は「やや悪くなる」と回答する人の割合は12.9ポイント増加している。

図表2 - 1 各分野における景気の先行き判断D Iの推移表

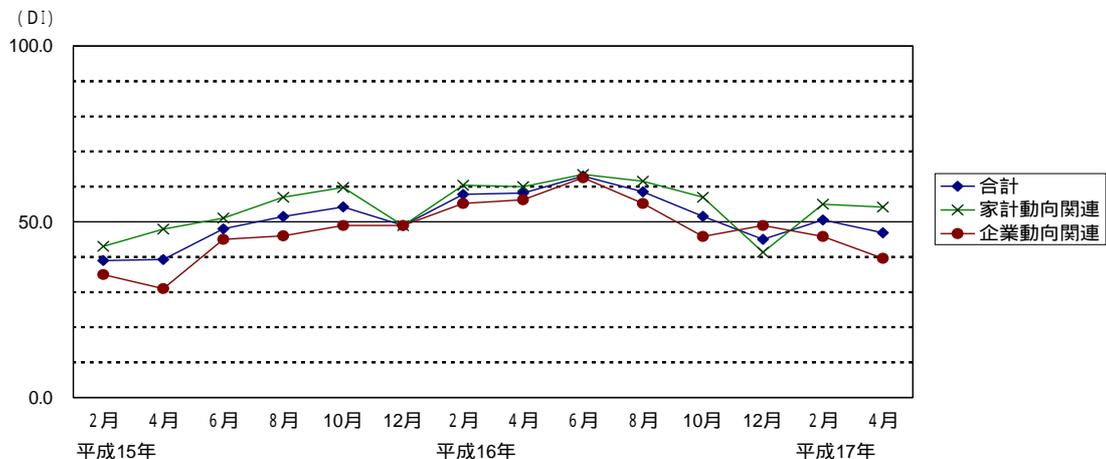
(D I)	平成16年		平成17年		(変化幅)
		12月	2月	4月	
合計		45.0	50.5	46.9	(-3.6)
家計動向関連		41.3	55.0	54.2	(-0.8)
小売関連		46.2	52.1	47.9	(-4.2)
飲食関連		-	-	-	(-)
サービス関連		39.3	57.1	60.7	(3.6)
住宅関連		-	-	-	(-)
企業動向関連		49.0	45.8	39.6	(-6.2)
製造業		50.0	46.4	42.9	(-3.5)
非製造業		48.5	45.6	38.2	(-7.4)

(備考)家計動向関連のうち、飲食関連、住宅関連については、サンプル数の関係で非公表としている。

図表2 - 2 構成比

年	月	良くなる	やや良くなる	変わらない	やや悪くなる	悪くなる
平成16年	12	2.0%	12.0%	56.0%	24.0%	6.0%
平成17年	2	2.0%	22.4%	55.1%	16.3%	4.1%
	4	2.1%	20.8%	43.8%	29.2%	4.2%
(変化幅)		(0.1)	(-1.6)	(-11.3)	(12.9)	(0.1)

図表2 - 3 各分野における景気の先行き判断D Iの推移



3 現在の景気水準に対する判断（参考）

現在の景気的水準自体に対する判断は、以下のとおりであった（注）。

図表 3 - 1 各分野における景気の現状水準判断D Iの推移

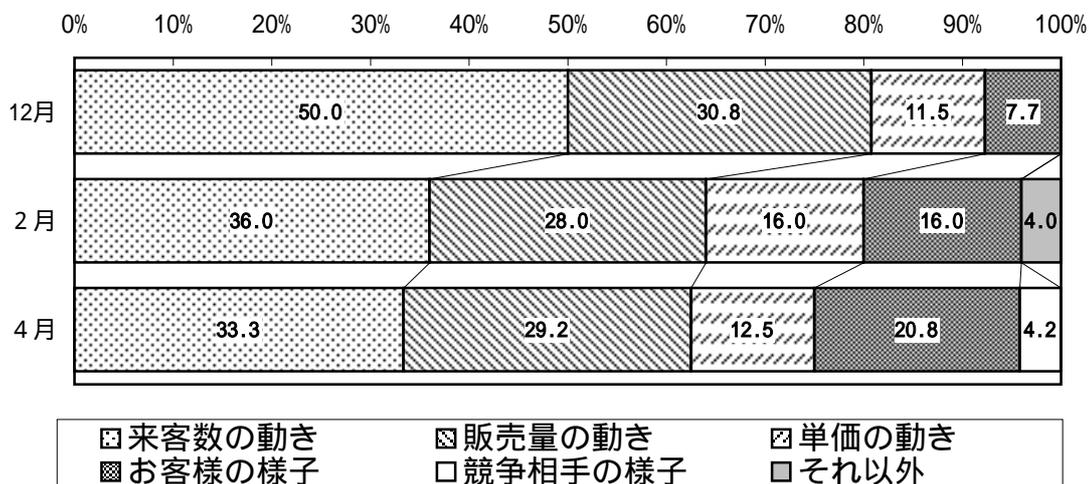
(D I)	平成16年	平成17年		
		12月	2月	4月
合計	39.5	45.4	43.8	
家計動向関連	39.4	49.0	50.0	
小売関連	34.6	52.1	41.7	
飲食関連	-	-	-	
サービス関連	39.3	42.9	57.1	
住宅関連	-	-	-	
企業動向関連	39.6	41.7	37.5	
製造業	53.6	39.3	46.4	
非製造業	33.8	42.6	33.8	

(備考)家計動向関連のうち、飲食関連、住宅関連については、サンプル数の関係で非公表としている。

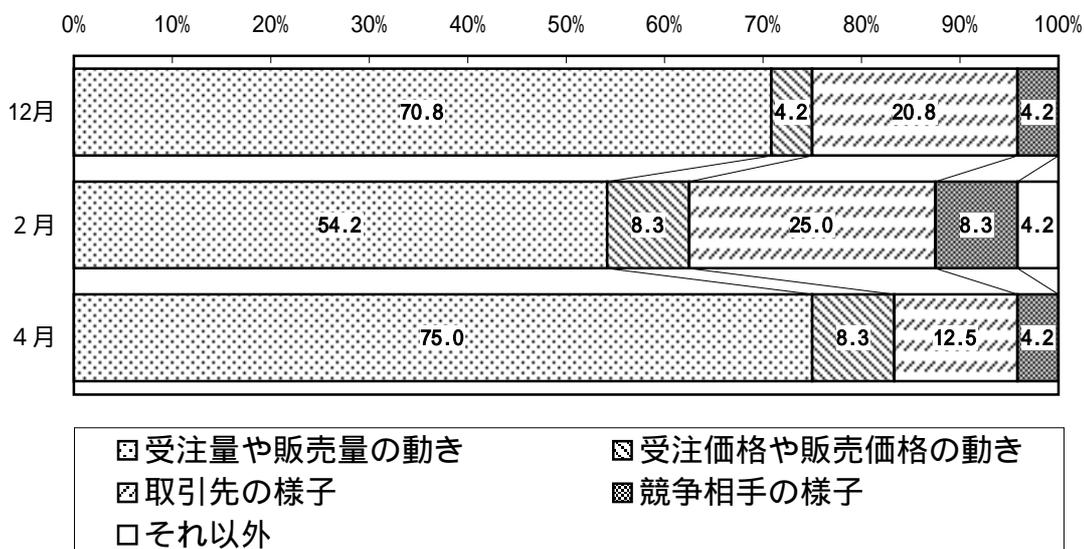
(注)景気の現状をとらえるには、景気の方角性に加えて、景気的水準自体について把握することも必要と考えられることから、参考までに掲載するものである。

4 (1) 景気の現状に対する判断理由着目点

家計動向関連



企業動向関連



注) 本グラフは景気の現状に対する判断理由着目点の構成比を示している。
割合が0%の場合、数値は表記していない。

4 (2) 景気の現状に対する判断理由

(- : 回答が存在しない、 : 主だった回答等が存在しない)

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	一般小売店 〔靴〕(営業担当)	来客数の動き	・必需品が中心ではあるが、来客数の微増とともに買上率が高まってきている。
		百貨店(販売促進担当)	単価の動き	・多少ではあるが、商品単価が上がっている。
		コンビニ(店長)	販売量の動き	・アイスクリームなどのデザート類や、ファーストフードなどの販売量が前年に比べ、少しずつ上昇している。
		一般レストラン(経営者)	来客数の動き	・少し暖かくなってきたので、客が出てきている。(特に遠方からの客)
		都市型ホテル(広報担当)	来客数の動き	・宿泊稼働率も前年を上回っており、高稼働を続けている。また、宴会でも法人の利用が戻ってきている。
		都市型ホテル(経営者)	お客様の様子	・価格に対するシビアな見方はあまり変わらないが、全体的に動きがやや活発化してきている。
		旅行代理店(営業担当)	販売量の動き	・今年のゴールデンウィークは大型なので、国内、海外とも旅行へ行く客が増加している。
		通信会社(営業担当)	販売量の動き	・新年度を迎え、販売量が多少伸びている。
		設計事務所(所長)	販売量の動き	・既存建物の改修物件が多くなっている。
	変わらない	百貨店(広報担当)	お客様の様子	・来客数は前年比プラス20%で推移しているが、売上は低迷を続けている。
		スーパー(店長)	販売量の動き	・客単価の減少を来客数の増加でカバーしている状況が続いている。
		衣料品専門店(店長)	来客数の動き	・年々来客数が減少している。新しい客が顧客になりにくい。
		高級レストラン(経営者)	単価の動き	・例年3～4月の年度替わりは歓送迎会が多く、20名程度までの宴会予約が多数入るが、ここ何年かの傾向として、会社の補助金等の割合が低く、個人予算で行う宴会が多い。法人の交際費や厚生費の増加が飲食店の売上増につながる。
		競馬場(職員)	来客数の動き	・単価の動きは横ばいであるが、来客数の減少から景気は下向き加減である。
	やや悪くなっている	スーパー(店長)	単価の動き	・来客数はそんなに減少していないが、客単価が悪くなっている。
		衣料品専門店(店長)	来客数の動き	・大型の魅力的な商業施設が増えており、客に選ばれる店作りをしていかないと、かなり厳しい。
		通信会社(営業担当)	お客様の様子	・通信機器、インターネット回線の販売目標が達成できず、売上は減少している。
		その他レジャー施設(経営者)	来客数の動き	・週何回か来店していた客の会社が他地域に移転してしまい、その穴が今も埋まらない。
悪くなっている	コンビニ(経営者)	競争相手の様子	・店の斜め前に出店され、悪くなっている。	
企業 動向 関連	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	通信業(営業担当)	受注量や販売量の動き	・平成16年度の受注額は速報値ベースで前年度より約10%増加している。
	変わらない	新聞業(営業担当)	受注量や販売量の動き	・広告の申込状況をみる限りでは失速気味だが、前期に急進したことを考えると、あまり悲観的な状況ではない。
		建設業(営業担当)	受注価格や販売価格の動き	・受注競争によるダンピング等の価格競争が日常化し、施主の予算が低下する傾向で、厳しい状況が続いている。
		輸送業(従業員)	受注量や販売量の動き	・ハイヤー、タクシー、介護の受注売上は、前年に比べて少し落込んでいる。
		通信業(営業担当)	競争相手の様子	・競争が激化しており、厳しい状況は変わらない。
		金融業〔証券〕(営業担当)	受注量や販売量の動き	・悲観的なムードはないものの、ここにきて一昨年より昨年未まで続いていた先行きへの期待がやや気迷いに転じつつある。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		卸売業〔機械器具〕（経営者）	受注量や販売量の動き	・前回調査時とほとんど変化はないが、原料値上げに伴い、各メーカーから4月1日より本年2度目の値上げをするという通知があり、大変営業し辛くなっている。
		経営コンサルタント	取引先の様子	・仕入れ、販売量ともに変化がない。マスコミでボーナスアップ等、景気が良くなったような事が書かれているが、中小企業の実感はない。
	やや悪くなっている	新聞業（経営者）	取引先の様子	・経費削減のためか、今年に入って取引先が減少している。
		出版業（経営者）	受注量や販売量の動き	・大企業と中小零細企業との較差は歴然としている。
		出版業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・受注量がここ最近では特別に少なく、少し安定したかと思っていたが打ち碎かれた。
		輸送業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・前月は年度末を控えて輸送依頼が集中したため、今月はその反動で受注が少ない。
		卸売業〔繊維・衣服等〕（営業担当）	受注量や販売量の動き	・例年1月は大型催事があるので、3か月前と比べると受注、販売量とも下回っている。
		広告代理店（営業担当）	受注量や販売量の動き	・2、3月と年度末で担当クライアントの業績が良かった影響もあり、前年同期比で約120%の受注があったが、4～6月期は前年より少し悪い見通しになっている。
	悪くなっている			

4 (3) 景気の先行きに対する判断理由

(- : 回答が存在しない、 : 主だった回答等が存在しない)

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる	百貨店(販売促進担当)	・株価も上昇してきており、消費も上向きになると見込んでいる。
	やや良くなる	コンビニ(店長)	・住宅が増えたことで、昼は活発だが夜は静かというオフィス街特有の状況が変わり、店舗前の夜の交通量、来客数が少しずつ増加している。天候に左右されると思うが、来客数の伸び、買上点数の増加が期待される。
		高級レストラン(店)	・ゴールデンウィークなどの連休により、景気が良くなる。
		一般レストラン(経営者)	・例年同様、5月のゴールデンウィークや修学旅行客の来店でやや良くなる。
		都市型ホテル(経営者)	・客は将来に対する不安はあるが、当面今の生活をエンジョイする傾向にある。
		旅行代理店(営業担当)	・企業等のマーケットにも回復傾向がみられるため、やや良くなる。
		通信会社(営業担当)	・IP電話、光ファイバー回線などの販売に期待している。
	変わらない	通信会社(営業担当)	・新サービスを軸として、インターネット回線の販売数も向上すると見込んでいる。
		一般小売店[靴](営業担当)	・夏商戦に向けても買上率が維持できれば、今現在の上向き感
			百貨店(売場主任)
		百貨店(総務担当)	・低単価傾向は今後の購買動向においても変わらない。
		百貨店(広報担当)	・当店単独の売上は前年をクリアしているが、全体では減収の状況であり、変わらない。
		スーパー(店長)	・客が必要な物のみを購入する傾向は今後も続く。パブル崩壊後はそのような買い方が身に付いてしまっている。
		衣料品専門店(店長)	・良くなる要素が見当たらない。
		高級レストラン(経営者)	・いろいろな仕掛けをしないと良くならない。
		一般レストラン(経営者)	・冬場の高額商品(フグや高額鮮魚類)が終了し、通常の会席コースに移行する時期となる。同業他店も季節特別の企画を打ち出し、売上維持を図る。景気が良くなるとは考えられない。
		都市型ホテル(広報担当)	・現在の売上から考えると、先行きも変わらない。
		競馬場(職員)	・4月は比較的好調なので、このままの数字を残せば良い。やや良くなるに近いと思うが、すぐに良くなるとは感じない。
		設計事務所(所長)	・レジャー産業にかかる経費が急に増えるとは考えられない。
		やや悪くなっている	一般小売店[和菓子](経営者)
スーパー(店長)			・原油の高騰やアジアの日本に対する姿勢は日本経済にとって明るい材料とはいえない。
コンビニ(経営者)	・今後しばらくは来客数は横ばい、少しずつ客単価が下降する状況が続く。新カテゴリーの商品の導入が必要である。		
その他レジャー施設(経営者)	・客がお金を使わないのでやや悪くなる。		
悪くなる	-	-	
企業 動向 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	新聞業(営業担当)	・求人市場も動いており、所得も上向き傾向にある。これが個人消費に結び付けば、景気もいくらかは良くなる。
		通信業(営業担当)	・平成17年度はまだスタートしたばかりだが、既に証券会社のシステム導入など、大口の案件が動き始めている。今後も個人情報保護法がらみの特需が期待できそうである。
		その他サービス業[情報サービス](経営企画担当)	・前年度以降、技術者派遣及び文書類ドキュメントのイメージ化処理の売上が増加傾向にあることや、4月1日からのe-文書法施行が当社ビジネスを後押しする期待がある。
	変わらない	新聞業(経営者)	・業種によって変化があり、景気の動きも一律ではなく、全体的にみると変わらない。
		出版業(営業担当)	・周辺地域には新しくオープンした店が沢山出現しており、飲食店はほぼ混んでいる。景気は底をつき、消費は拡大傾向にあるとみているが、受注量があまりに少ないのでこのままで変わらないかもしれない。
		印刷業・製本業(経営者)	・一番忙しい1~3月の売上は前年同時期とほぼ変わらず、ここ半年の売上などからみても変わらない。
		建設業(営業担当)	・公共事業費の縮減、民間の価格ダウンが続いている状況は変わらない。
		建設業(経営者)	・原油価格の高騰により、景気が悪くなる懸念がある。金利、株価などは横ばいに推移する。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		輸送業（従業員）	・良くなるという要素がない。景気は2～3か月では変わらない。
		輸送業（営業担当）	・例年ゴールデンウィーク明け以降は輸送量が増加傾向となるが、燃料費の高騰の影響で景気は今一つである。
		金融業〔証券〕（営業担当）	・株価、金利、為替、商品（原油等）の各々のファクターが、一様に方向感を失っているように見受けられる。これが更に景況感の停滞につながっている。
		卸売業〔機械器具〕（経営者）	・原材料、ガソリン等の値上げの品が増えている。
	やや悪くなる	出版業（経営者）	・大企業と中小零細企業との較差は歴然としている。
		印刷業・製本業（総務担当）	・石油価格の高騰により、やや悪くなる。
		印刷業・製本業（経営者）	・例年5月過ぎは仕事量が減ってくるので、やや悪くなる。
		通信業（営業担当）	・原油高騰、株価不安定により、やや悪くなる。
		卸売業〔繊維・衣服等〕（経営者）	・季節要因を考慮すると当然物の動きが良くなるはずだが、その気配がない。年度替わりや陽気の変化が形に表れない。
		卸売業〔機械器具〕（従業員）	・取引先が官公庁なので、3月の年度末を境に受注量が減少する。
		広告代理店（営業担当）	・取引先の業績好調の影響もあり、年度末までは前年同期比120%程度の受注があったが、4～6月期は前年より少し悪い見通しになっている。
	経営コンサルタント	・客が税金の動きに敏感になっているため、やや悪くなる。	
	悪くなる	卸売業〔繊維・衣服等〕（営業担当）	・夏場は例年、受注量、販売量とも動きがダウンする。
卸売業〔機械器具〕（従業員）		・受注回復の目途が立たない。	

(別紙) 調査客体の分野・業種別人数構成

分野	業種	調査客体数 (人)	
合計		50	
家計動向関連	小売関連	25	
	商店街・一般小売店	13	
	商店街代表者	2	
	一般小売店経営者・店員	0	
	百貨店	2	
	百貨店売場主任・担当者	5	
	スーパー	5	
	スーパー店長・店員	2	
	コンビニエンスストア	2	
	コンビニエリア担当・店長	2	
	衣料品専門店	2	
	衣料品専門店経営者・店員	2	
	家電量販店	0	
	家電量販店経営者・店員	0	
	乗用車・自動車備品販売店	0	
	乗用車・自動車備品販売店経営者・店員	0	
	その他小売店	0	
	住関連専門店経営者・店員	0	
	その他専門店経営者・店員	0	
	その他小売の動向を把握できる者	0	
	飲食関連	4	
	高級レストラン経営者・スタッフ	2	
	一般レストラン経営者・スタッフ	2	
	スナック経営者	0	
	その他飲食の動向を把握できる者	0	
	サービス関連	7	
	旅行・交通関連	3	
	観光型ホテル・旅館経営者・スタッフ	0	
	都市型ホテル・旅館経営者・スタッフ	2	
	旅行代理店経営者・従業員	1	
	タクシー運転手	0	
	通信会社	2	
	通信会社社員	2	
	レジャー施設関連	2	
	観光名所・遊園地・テーマパーク職員	0	
	ゴルフ場経営者・従業員	0	
	パチンコ店経営者・従業員	0	
	競輪・競馬・競艇場職員	1	
	その他レジャー施設職員	1	
	その他サービス	0	
	美容室経営者・従業員	0	
	その他サービスの動向を把握できる者	0	
	住宅関連	1	
	設計事務所所長・職員	1	
	住宅販売会社経営者・従業員	0	
	その他住宅投資の動向を把握できる者	0	
	その他家計の動向を把握できる者	0	
	企業動向関連	農林水産業従業者	25
		鉱業経営者・従業員	0
		製造業経営者・従業員	0
食料品製造業		7	
繊維工業		0	
家具及び木材木製品製造業		0	
パルプ・紙・紙加工品製造業		0	
出版・印刷・同関連産業		7	
新聞業		2	
出版業		2	
印刷業・製本業		3	
その他出版・印刷・同関連産業		0	
化学工業		0	
石油製品・石炭製品製造業		0	
プラスチック製品製造業		0	
窯業・土石製品製造業		0	
鉄鋼業		0	
非鉄金属製造業		0	
金属製品製造業		0	
一般機械器具製造業		0	
電気機械器具製造業(精密機械を含む)		0	
輸送用機械器具製造業		0	
その他製造業		0	
非製造業経営者・従業員		18	
建設業		2	
輸送業		2	
通信業		2	
金融業		2	
不動産業		0	
卸売業		7	
繊維・衣服等		2	
飲食品		1	
建築材料、鉱物・金属材料等		1	
機械器具		3	
その他卸売業		0	
サービス業		3	
広告代理店・新聞販売店[広告]		1	
司法書士・経営コンサルタント・会計事務所職員等		1	
コピーサービス業		0	
その他サービス業		1	
その他非製造業	0		
その他企業の動向を把握できる者	0		